

運用報告書(全体版) 満期償還

第8作成期

第14期 (償還日：2018年7月13日)

*当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商 品 分 類	単字型投信／内外／その他資産 (ハイブリッド証券)
信 託 期 間	2014年12月30日から2018年7月13日まで
運 用 方 針	<ul style="list-style-type: none">・ G7諸国およびスイスのG-SIFIsに指定されている、または指定される見込みの金融機関が発行している米国ドル建て、ユーロ建ておよび英国ポンド建てのハイブリッド証券を主要投資対象とし、相対的に高水準かつ安定的な利子・配当等収益(インカム収入)の獲得を図りつつ、中長期的に信託財産の着実な成長を目指します。・ 原則として、投資するハイブリッド証券は、当ファンドの償還日前にコール(繰上)償還や定時償還が設けられている銘柄とします。・ 外貨建て資産については、為替変動リスクを回避するため、原則として為替のフルヘッジを行います。・ 実際の運用にあたっては、パインブリッジ・インベストメンツ・エルエルシー(PineBridge Investments LLC)に外貨建て資産の運用に関する権限を委託します。
主 要 投 資 対 象	G7諸国およびスイスのG-SIFIsに指定されている、または指定される見込みの金融機関が発行しているハイブリッド証券を主要投資対象とします。
組 入 制 限	<ul style="list-style-type: none">・ 株式への投資割合には、制限を設けません。・ 外貨建て資産への投資割合には、制限を設けません。
分 配 方 針	毎年2、5、8、11月の各15日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

パインブリッジ・グローバル 金融機関ハイブリッド証券 ファンド 2014-12 〈愛称：グッド・セブン・プラスⅡ〉

——— 受益者のみなさまへ ———

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

「パインブリッジ・グローバル金融機関ハイブリッド証券ファンド 2014-12」は、2018年7月13日をもちまして償還いたしましたので、運用状況および償還内容をご報告申し上げます。

長い間ご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
〒100-6813 東京都千代田区大手町一丁目3番1号 JAビル

お問い合わせ先・・・投資信託担当

電話番号／03-5208-5858

(受付時間／9：00～17：00(土、日、祝休日を除く))

ホームページ／<https://www.pinebridge.co.jp/>

目次

◆パインブリッジ・グローバル金融機関ハイブリッド証券ファンド 2014-12 ＜愛称：グッド・セブン・プラスⅡ＞ 運用報告書 償還

◆設定以来の運用実績	1
◆当作成期中の基準価額と市況等の推移	2
◆設定以来の投資環境	3
◆設定以来の運用経過	5
◆1万口(元本10,000円)当たりの費用明細.....	8
◆売買および取引の状況.....	8
◆主要な売買銘柄.....	9
◆利害関係人との取引状況等	9
◆組入資産の明細.....	9
◆投資信託財産の構成	9
◆資産、負債、元本および償還価額の状況.....	10
◆損益の状況.....	10
◆投資信託財産運用総括表	11
◆毎計算期末の状況	11
◆償還金のお知らせ	11

◆設定以来の運用実績

決 算 期		基 準 価 額				受 益 者 利 回 り	ハイブリッド証券組入比率	元 本 率 残 存 率
		(分配落)	税 込 分配金	期 中 騰 落 額	期 中 騰 落 率			
第1作成期	(設 定 日)	円	円	円	%	%	%	%
	2014年12月30日	10,000	-	-	-	-	-	100.0
第2作成期	第1期(2015年5月15日)	10,053	45	98	1.0	2.6	95.7	99.7
	第2期(2015年8月17日)	9,863	45	△145	△1.4	△0.7	97.3	99.4
第3作成期	第3期(2015年11月16日)	9,765	45	△53	△0.5	△1.1	94.4	99.0
	第4期(2016年2月15日)	9,387	20	△358	△3.7	△4.0	86.8	97.2
第4作成期	第5期(2016年5月16日)	9,506	20	139	1.5	△2.3	90.2	91.2
	第6期(2016年8月15日)	9,752	20	266	2.8	△0.3	88.0	81.4
第5作成期	第7期(2016年11月15日)	9,557	20	△175	△1.8	△1.2	97.4	76.5
	第8期(2017年2月15日)	9,951	5	399	4.2	0.8	97.5	52.8
第6作成期	第9期(2017年5月15日)	10,216	5	270	2.7	1.9	96.2	38.9
	第10期(2017年8月15日)	10,402	5	191	1.9	2.4	96.6	29.0
第7作成期	第11期(2017年11月15日)	10,428	5	31	0.3	2.3	95.4	25.4
	第12期(2018年2月15日)	10,538	5	115	1.1	2.5	94.0	23.1
第8作成期	第13期(2018年5月15日)	10,546	5	13	0.1	2.3	72.4	22.5
	(償 還 日)	(償還価額)						
	第14期(2018年7月13日)	10,437.83	△108.17	△1.0	1.9	-	21.9	

(注1) 設定日の基準価額は当初設定の投資元本です。

(注2) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注3) 受益者利回りは分配金込み基準価額の当初元本に対する年率換算利回りです。

(注4) 当ファンドは、適切に比較できる指数がないため、ベンチマーク等はありません。

◆当作成期中の基準価額と市況等の推移

決算期	年 月 日	基 準 価 額		ハイブリッド証券 組 入 比 率
			騰落率	
第14期	(期 首) 2018年5月15日	円 10,546	% -	% 72.4
	5月末	10,511	△0.3	62.9
	6月末	10,445	△1.0	-
	(償 還 日) 2018年7月13日	(償還価額) 10,437.83	△1.0	-

(注) 騰落率は期首比です。

設定以来の投資環境

(2014年12月30日～2018年7月13日)

第1作成期 (2014年12月30日～2015年5月15日)

当作成期のハイブリッド証券市場は、原油価格の下落やギリシャ債務問題をめぐる不透明感などを受けてマーケットにおける投資家心理が悪化する局面もありましたが、ECB（欧州中央銀行）による量的金融緩和策の導入や、FRB（米連邦準備制度理事会）による利上げ開始時期の後ずれ観測などの主要先進国の緩和的な金融政策の継続を背景に底堅い推移となりました。

第2作成期 (2015年5月16日～2015年11月16日)

当作成期のハイブリッド証券市場は、FRBによる利上げ懸念、ギリシャの債務交渉の難航、中国株の急落を端緒とした世界の株式市場の下落などを受けて、投資家心理が悪化する中、信用スプレッド（国債に対する上乗せ金利）が拡大し、軟調な展開となりました。10月以降は欧州や中国における金融緩和拡大見通しなどを背景に投資家心理が改善したことから、ハイブリッド証券市場は作成期末にかけては回復基調で推移しました。

なお、格付会社ムーディーズ、S&P、フィッチは、それぞれ新たな銀行格付手法に基づき、5月から6月にかけてグローバルの銀行格付見直しを発表しました。今回発表された格付け見直しについては、ハイブリッド証券にとって概ねポジティブなものとなりました。

第3作成期 (2015年11月17日～2016年5月16日)

当作成期のハイブリッド証券市場は、作成期首から12月にかけては、FRBによる利上げへの警戒などを背景に一進一退の展開となりました。1月以降は、中国の経済減速懸念の強まり、原油安の進行、ドイツ銀行の軟調な決算発表に端を発した欧州の金融機関への信用懸念の高まりなどを受けて、世界的にリスク回避の動きが強まる中、欧米の国債利回りは低下し、信用スプレッドが大幅に拡大したことから、2月中旬にかけて調整局面となりました。しかし、その後、作成期末にかけては、米国マクロ指標の改善、FRBによる利上げペースの減速示唆やECBによる追加緩和などを受けて安心感が広まり、信用スプレッドが縮小傾向となったことから、上昇基調を辿りました。

第4作成期 (2016年5月17日～2016年11月15日)

当作成期のハイブリッド証券市場は、作成期中前半は上昇、後半は下落となりました。作成期中前半は、Brexit（英国のEU（欧州連合）離脱）に対する懸念から軟調となる局面もありましたが、Brexitが世界経済に及ぼす影響は当面は限定的であるとの見方が広まったことや、主要中央銀行による金融緩和のさらなる強化への期待にも下支えされて9月にかけては上昇基調で推移しました。しかし、作成期中後半は、FRBによる利上げ観測の強まり、ECBによる量的金融緩和の縮小観測などを背景に欧米の金利が上昇傾向となる中、軟調な推移となりました。11月には、米国大統領選挙の結果を受けて米国を中心に金利が急上昇したことから、ハイブリッド証券市場は作成期末にかけて下げ幅を拡大する展開となりました。

第5作成期 (2016年11月16日～2017年5月15日)

当作成期のハイブリッド証券市場は、堅調に推移しました。作成期首は、米国大統領選挙の結果を受けて米国を中心に金利が急上昇したことが嫌気され軟調な展開となりました。しかしその後は、米国長期金利の上昇が一服したことなどをを受けて反発しました。3月に入り、米国の年内利上げペースの加速観測から軟調に推移する局面もありましたが、FOMC（米連邦公開市場委員会）で先行きの利上げペースの加速が示されなかったことに伴う米国長期金利の低下や、4月下旬以降は世界的な株価上昇に伴う市場のリスク選好姿勢から信用スプレッドが急激に縮小したなどもあり、上昇基調を維持しました。

第6作成期 (2017年5月16日～2017年11月15日)

当作成期のハイブリッド証券市場は上昇しました。6月末から7月上旬にかけてECBによる金融緩和縮小観測から欧州の長期金利を中心に先進国全体の長期金利が急上昇する中、一時軟調に推移しました。しかしその後は、トランプ政権の政策実行に対する不透明感や、米国の経済指標の一部に弱い内容が散見されたほか、インフレ指標が低下したことなどに伴う米国の早期利上げ観測の後退を受けた米国長期金利低下などが好感され上昇基調となりました。9月下旬以降は、FRBの保有資産の縮小開始決定などから米国長期金利が再び上昇基調となったことが嫌気された一方で、北朝鮮情勢への過度な警戒感の後退や世界的に株式市場が堅調に推移するなど市場のリスク選好の動きが強まる中、信用スプレッドが縮小したことが下支え要因となり、一進一退の展開となりました。

第7作成期 (2017年11月16日～2018年5月15日)

当作成期のハイブリッド証券市場は下落しました。作成期首から1月中旬までは、低インフレ環境の継続に伴い米国の利上げペースは緩やかなものに留まるとの見方や、米国の税制改革法案成立やドイツの連立政権樹立に向けた協議の進展などに伴う市場のリスク選好の動きの強まりを受けて堅調に推移しました。しかしその後は、トランプ政権による保護主義的な通商政策に伴う米中貿易摩擦への警戒感、米国の財政赤字拡大に伴う国債増発による需給悪化懸念や原油価格の上昇などから米国の長期金利が一段と上昇基調を強めたことなどが嫌気され軟調に推移しました。

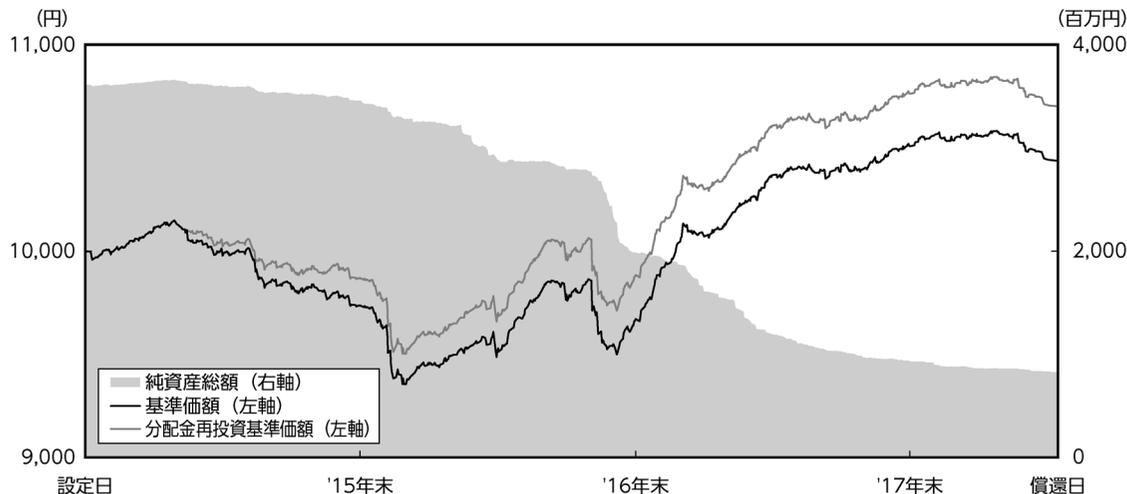
第8作成期 (2018年5月16日～2018年7月13日)

当作成期のハイブリッド証券市場は小幅上昇しました。トランプ政権による保護主義的な通商政策に伴う米中貿易摩擦激化への警戒感などから信用スプレッドが拡大したことが嫌気された一方で、米国の長期金利が低下したことが好感され小幅ながら上昇しました。

設定以来の運用経過

(2014年12月30日～2018年7月13日)

基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 当ファンドは単位型投信ですので実際には分配金を再投資することはできません。また、課税条件等を考慮しておりませんので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

基準価額の主な変動要因

第1作成期（2014年12月30日～2015年5月15日）

当ファンド保有のハイブリッド証券の利息収入が基準価額の主な上昇要因となりました。

●分配金の状況

当作成期の収益分配金につきましては、基準価額水準と市況動向を勘案して第1期45円（元本1万口当たり課税前）とさせていただきます。なお、分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、元本部分と同一の運用を行うことといたします。

第2作成期（2015年5月16日～2015年11月16日）

当ファンド保有のハイブリッド証券の価格が総じて軟調に推移したことが基準価額の主な下落要因となりました。

●分配金の状況

当作成期の収益分配金につきましては、基準価額水準と市況動向を勘案して第2期、第3期それぞれ

45円（元本1万口当たり課税前）とさせていただきます。なお、分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、元本部分と同一の運用を行うことといたします。

第3作成期（2015年11月17日～2016年5月16日）

当ファンド保有のハイブリッド証券のインカム収入が基準価額のプラス要因となった一方、2月のドイツ銀行の軟調な決算発表に端を発した欧州の金融機関への信用懸念の高まりなどを受けた信用スプレッドの拡大に伴い、保有ハイブリッド証券の価格が総じて下落したことが基準価額の主なマイナス要因となり、基準価額は下落しました。

●分配金の状況

当作成期の収益分配金につきましては、基準価額水準と市況動向を勘案して第4期、第5期それぞれ20円（元本1万口当たり課税前）とさせていただきます。なお、分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、元本部分と同一の運用を行うことといたします。

第4作成期（2016年5月17日～2016年11月15日）

当ファンド保有のスタンダード・チャータード銀行発行のハイブリッド証券の価格下落といったマイナス要因はありましたが、その他の保有ハイブリッド証券の価格が総じて上昇したことや保有ハイブリッド証券のインカム収入といったプラス要因がそれを吸収し、基準価額は上昇しました。

●分配金の状況

当作成期の収益分配金につきましては、基準価額水準と市況動向を勘案して第6期、第7期それぞれ20円（元本1万口当たり課税前）とさせていただきます。なお、分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、元本部分と同一の運用を行うことといたします。

第5作成期（2016年11月16日～2017年5月15日）

当ファンド保有の保険会社が発行するハイブリッド証券のうち4銘柄の繰上償還見送りが決定しましたが、4銘柄とも既に繰上償還見送りが織り込まれており、適正な価格を模索する展開の中、当作成期間中は上昇しました。また、上記以外の当ファンド保有のハイブリッド証券の価格も総じて上昇したことに加え、保有ハイブリッド証券のインカム収入を得られたことが主なプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

●分配金の状況

当作成期の収益分配金につきましては、基準価額水準と市況動向を勘案して第8期、第9期それぞれ5円（元本1万口当たり課税前）とさせていただきます。なお、分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、元本部分と同一の運用を行うことといたします。

第6作成期（2017年5月16日～2017年11月15日）

当ファンド保有のRBS、コメルツ銀行発行のハイブリッド証券について、繰上償還見送りが決定しましたが、いずれの銘柄も既に繰上償還見送りの懸念は織り込まれており、適正な価格を模索する展開の中、当作成期間中は上昇しました。また、前作成期に繰上償還見送りが決定していたXLグループ発行のハイブリッド証券を発表された額面の93.0%で買戻す公開買付けに応じ売却

しましたが、影響は限定的でした。その他のハイブリッド証券の価格が総じて上昇したことに加え、保有ハイブリッド証券のインカム収入を得られたことが主なプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

●分配金の状況

当作成期の収益分配金につきましては、基準価額水準と市況動向を勘案して第10期、第11期それぞれ5円（元本1万口当たり課税前）とさせていただきます。なお、分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、元本部分と同一の運用を行うことといたします。

第7作成期（2017年11月16日～2018年5月15日）

当ファンド保有のハイブリッド証券の価格が小幅下落したことはマイナス要因となりましたが、保有ハイブリッド証券のインカム収入を得られたことが主なプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

●分配金の状況

当作成期の収益分配金につきましては、基準価額水準と市況動向を勘案して第12期、第13期それぞれ5円（元本1万口当たり課税前）とさせていただきます。なお、分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、元本部分と同一の運用を行うことといたします。

第8作成期（2018年5月16日～2018年7月13日）

当ファンド保有のハイブリッド証券のインカム収入を得られたことはプラス要因となりましたが、保有ハイブリッド証券の価格が下落したことが主なマイナス要因となり、基準価額は下落しました。また、既に繰上償還見送りが決定していたスタンダード・チャータード銀行、エベレスト・リ・グループ、リンカーン・ナショナル、コメルツ銀行、RBS発行のハイブリッド証券について時価売却を行いました。基準価額への影響は限定的でした。

●運用経過

当ファンドの運用方針に基づき運用を行いました。コール償還を迎えた銘柄以外は2018年7月13日のファンドの償還に向けてポートフォリオの現金化を図りました。

受益者のみなさまには、長い間ご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

◆1万口(元本10,000円)当たりの費用明細

(2018年5月16日～2018年7月13日)

項 目	第14期 (2018.5.16～2018.7.13)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信託報酬	24円	0.232%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10,478円です。
(投信会社)	(12)	(0.113)	委託した資金の運用、交付運用報告書等の作成、ファンドの監査等の対価
(販売会社)	(12)	(0.113)	交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(1)	(0.005)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用 (保管費用)	1 (1)	0.005 (0.005)	その他費用＝期中のその他費用/期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転に要する費用
合 計	25円	0.237%	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。また、各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注2) 比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

◆売買および取引の状況

(2018年5月16日～2018年7月13日)

【ハイブリッド証券】

		買 付 額		売 付 額	
外	ア	メ	千米国ドル	千米国ドル	
			リ	－	2,630
				(675)	
国	ユ	ー	千ユーロ	千ユーロ	
			ド	－	582
	イ	ギ	千英国ポンド	千英国ポンド	
			－	－	
				(1,170)	

(注1) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれていません。)

(注2) 単位未満は切捨て。

(注3) ()内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれていません。

◆**主要な売買銘柄**

(2018年5月16日～2018年7月13日)

【ハイブリッド証券】

買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
—	—	EVEREST REINSURANCE HLDG 4.72750% (アメリカ)	80,644
		LINCOLN NATIONAL CORP 4.39866% (アメリカ)	78,448
		STANDARD CHARTERED PLC 3.86878% (アメリカ)	77,378
		HT1 FUNDING GMBH 1.81900% (ユーロ・ドイツ)	74,443
		ROYAL BK OF SCOT GRP PLC 4.65438% (アメリカ)	54,308

(注1) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれていません。)

(注2) 単位未満は切捨て。

◆**利害関係人との取引状況等**

(2018年5月16日～2018年7月13日)

当作成期における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

◆**組入資産の明細**

(2018年7月13日現在)

償還日現在における有価証券等の組入れはありません。

◆**投資信託財産の構成**

(2018年7月13日現在)

項 目	当作成期末 (償還時)	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	829,060	100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	829,060	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

◆資産、負債、元本および償還価額の状況

(2018年7月13日現在)

項 目	第14期末(償還時)
	円
(A) 資 産	829,060,993
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	829,060,993
(B) 負 債	1,935,559
未 払 信 託 報 酬	1,931,017
未 払 利 息	4,542
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	827,125,434
元 本	792,430,539
償 還 差 益 金	34,694,895
(D) 受 益 権 総 口 数	792,430,539口
1万口当たり償還価額(C/D)	10,437円83銭

<注記事項>

設定年月日
設定元本額

2014年12月30日
3,611,354,172円

第14期

期首元本額
元本残存率
1口当たり純資産額

814,454,818円
21.9%
1.043783円

◆損益の状況

(2018年5月16日～2018年7月13日)

項 目	第14期
	円
(A) 配 当 等 収 益	3,013,443
受 取 利 息	2,888,442
そ の 他 収 益 金	163,059
支 払 利 息	△ 38,058
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 9,778,982
売 買 益	59,728,657
売 買 損	△ 69,507,639
(C) 信 託 報 酬 等	△ 1,997,746
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	△ 8,763,285
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	44,430,083
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 971,903
償 還 差 益 金 (D + E + F)	34,694,895

(注1) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注2) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 投資信託財産の運用の指図にかかわる権限の一部を委託するために要する費用は388,992円です。(2018年5月16日～2018年7月13日)。

◆投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2014年12月30日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2018年 7月13日		資産総額	829,060,993円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	1,935,559円
受益権口数	3,611,354,172口	792,430,539口	△2,818,923,633口	純資産総額	827,125,434円
				受益権口数	792,430,539口
元本額	3,611,354,172円	792,430,539円	△2,818,923,633円	1万口当たり償還金	10,437.83円

◆毎計算期末の状況

計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金額	分配率
第1期	3,603,047,767円	3,622,203,878円	10,053円	45円	0.4500%
第2期	3,590,300,975	3,541,013,080	9,863	45	0.4500
第3期	3,575,367,655	3,491,505,126	9,765	45	0.4500
第4期	3,513,778,631	3,298,536,812	9,387	20	0.2000
第5期	3,294,199,053	3,131,483,442	9,506	20	0.2000
第6期	2,941,144,008	2,868,230,085	9,752	20	0.2000
第7期	2,765,683,606	2,643,276,119	9,557	20	0.2000
第8期	1,909,571,129	1,900,128,080	9,951	5	0.0500
第9期	1,407,556,636	1,437,983,580	10,216	5	0.0500
第10期	1,048,629,931	1,090,743,771	10,402	5	0.0500
第11期	917,642,995	956,885,824	10,428	5	0.0500
第12期	835,020,719	879,977,366	10,538	5	0.0500
第13期	814,454,818	858,884,901	10,546	5	0.0500
信託期間中1万口当たり総収益金及び年平均収益率				682.83円	1.9305%

◆償還金のお知らせ

1万口当たり償還金 (税込)	10,437円83銭
----------------	------------

◇償還金は償還日から起算して、5営業日までにお支払いを開始いたします。

◇償還金に対する税金は次のとおりです。

個人の受益者の場合は、償還時の差益については申告分離課税が適用され、20.315% (所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%) の税率となります。

法人の受益者の場合は、償還時の元本超過額について15.315% (所得税15%、復興特別所得税0.315%) の率による源泉徴収が行われます。

※税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になる場合があります。